

第78回 防災カフェを開催しました。



地域での多文化共生防災を考える

～在住外国人を含めた防災訓練をやってみよう～

日時：2023年4月21日(金) 18時30分～20時

ゲスト：浅井 華代 さん(日本防災士会滋賀県支部湖東ブロック長)

ファシリテーター： 會田 真由美 さん

(公益財団法人滋賀県国際協会職員/総務省災害時外国人支援情報コーディネーター)

海外から来日し、定住する外国人が増加しています。一部の地域では、在住外国人を含めて地域防災を考え、活動を始めているところもあります。

最初は戸惑われることもありますが、要領がつかめれば大きな力になります。今年の防災訓練には在住外国人にも声をかけてみませんか。

3月に放送されたNHKの『南海トラフ』というドラマの中の津波避難を呼びかけるシーンで、ひらがなで書かれた「**つなみ！にげて！すぐにげて！**」というテロップで流れていました。なぜなのでしょう。今回の内容に大きくつながっています。



ゲスト：浅井 華代 さん

最初に、二人が災害時外国人サポーターとして参加した2つのイベントを紹介します。彦根市文化プラザでは各国の救急・消防の電話番号の一覧が張り出されていました。この番号は世界統一ではありません。日本では119ですが、在住外国人の方はそれを知らない人も実は多いのです。日本では通報すると救急車は平均して約7分で到着しますが、電話をかけても誰も出ないことが多いため、直接消防署に駆け込んで火事を知らせている国もあるそうです。

また、草津ロクハ公園では、イラスト付きで緊急時の電話番号をポルトガル語、英語、ベトナム語で説明した国際協会作成の防災手ぬぐいを配布しました。

今回は、3つの事例について紹介します。

1 彦根市防災訓練避難所開設運営訓練

まず始めに水のろ過作業をしました。ベトナムの方と一緒に、ろ過装置でバケツの中の雨水をきれいにする作業をしました。次に10人程が並んで、体育館の入口からステージの上までダンボール箱をバケツリレーのようにして運び、その後物資をより分けて、個数を確認してどのように分けるかを相談しました。連絡したい内容が相手に正しく伝わるように、トランシーバーを真ん中に置いて、話の内容を全員で聴いてメモを取り、やさしい日本語に書き換えてから、掲示物を作成する

作業にも取り組みました。

さて、このような外国の方と共同作業中にどんなことがあったでしょうか。考えてみてください。

○何をやるものか意味が分からない。○訓練時に何をしているのかわからずに、戸惑っている。

○こちらの言う言葉の意味と外国の方の言う意味が違っていることがあった。等の意見が出ました。日本語としての言い方の問題だけでなく、生まれ育った生活環境の違いもあって、行き違いや意味の捉え方が私たちと違ってしまうこともよくあります。

訓練後には、参加した外国の方から、『どのように物資を配分したら良いのかを教えてもらった。』『水がきれいになる技術はすごい。』などの感想をいただきました。外国の方からも住民の方からも、どのような表現をすれば相手に理解してもらえるかをお互いに話し合えて良かったと言ってもらいました。

最初は言葉は通じませんでした。やさしい日本語に言い換えたり、片言の相手の国の言葉で話しかける、手ぶり身振りを交える、絵を描くなどの方法を考えました。外国の方と一緒に訓練をすること自体がハードルの高いことですから、どうやってコミュニケーションをとるのかと不安に思う人も多くいました。しかし、始まってみると身振り手振りを交えて、お互いに歩み寄ろうと頑張って最後には仲良くなりました。

なぜ外国の方に教えないといけないのかという人もいました。小学生にもわかるようなやさしい日本語で話したり、書いたりすることは難しいという人もいましたので、やさしい日本語とはどういう言葉なのかを簡単に説明したチラシを配布したら、わかったと言ってもらうことができました。

さらに避難訓練の後、二人のベトナム人の方が、日本防災士会滋賀県支部湖東ブロックが協力した応急手当の勉強会に参加してくれました。お子様が生まれたからということで、赤ちゃんの人形を使っての応急手当の練習に熱心に取り組んでいました。また、そのうちの一人が彦根市の消防本部が開催した普通救急救命講習（3時間講習）を受講し、修了証をもらうことができました。普通救急救命には国籍は関係ありませんから、外国の方も受講し、修了証も交付されています。

2. くすのき通り周辺 農家・住民有志の炊き出し訓練

彦根市社会福祉協議会と彦根市男女参画センターの協力で炊き出し訓練を行いました。男女に関係なく、その場にいる人がカレーをつくり、その後、隣の体育館で一緒に食べました。その中に視覚障害のあるブラジルの方が盲導犬を連れて参加してくださいました。

また、JA 東びわこに協力いただいて、災害に備えて炊き出し訓練も行いました。近隣の農家が商品価値のない野菜などを提供してくださり、豚汁をつくりました。

どんなことがあったでしょうか。考えてみてください。

○アレルギーや宗教上の理由で食べられないものがある人がいた。○イスラム教の方は豚肉が入っているどうかを気にされていた。○箸の使い方に戸惑っている方もいる。などの意見が出ました。

ハラールフードというイスラム教の方が安心して食べられるものがあります。袋にハラールフードのマークが入っているものは、豚肉やアルコールが混じらないようにして工場で作られたことを示

しています。レトルトの小豆と真空パックの餅を利用して、焚き火、カセットコンロ、かまどベンチなどを使ってぜんざいも簡単に作ることができますが、小豆アレルギーの方は注意してください。宗教上の理由やアレルギーのある方にも対応できる食品がいろいろと開発されています。

彦根市の危機管理課や人権政策課の多文化共生係からの呼びかけや、多文化クラブなどからの周知、外国人のリーダー格の人に仲間に呼びかけてもらって、訓練には15~16人が参加してくれました。見た目も違うので食べるのが不安な人も、みんなが食べていると、食べてみようかというようになります。

3. 彦根大雪の対応（訓練ではなく、実例）

問:雪が降ると聞きました。何をしたらいいですか。

問:車がつぶれた人はどうしたらいいですか。お店に行きたいのですが、どうやって行けばいいですか。



一昨年の冬、大雪のため、外国籍の方のお家でカーポートと車がつぶれてしまいました。ショベルで除雪するという感覚が外国人の方にはありません。

また、大雪の時に買い物をする際に、お店まで歩いていこうとしないで、雪の中を自転車で押して行こうとする人もいます。経験がないので危険性が想像できないからです。長靴を履かず、雪の上をゴム草履で歩こうとする人もいました。外国人の方と一緒に訓練をすれば、当たり前と思わずに、外国人の方が母国で経験したこととかなり違うことがあるということを頭に入れて、一緒に訓練する必要があります。

大雪で自動車がつぶれてしまい、気が動転されていましたが、つぶれた自動車の写真を撮ること、保険に加入しているなら、保険会社に連絡を入れるように伝えています。業者は対応に追われて、なかなか来てくれないから、焦らないように伝えました。これは日本の方でも同じです。

また、雪が降ると、ひざまで雪が降ることもあり、買い物に行けないかもしれない、水が出ないかもしれない、電気も止まるかもしれないので、今のうちにゆっくり歩いて買い物に行くように伝えています。日本に長く住んでいる人なら、当たり前のことを伝えておくことが大事です。困ったら隣のお家の方に相談するように伝えることも大事です。

お役立ちサイト

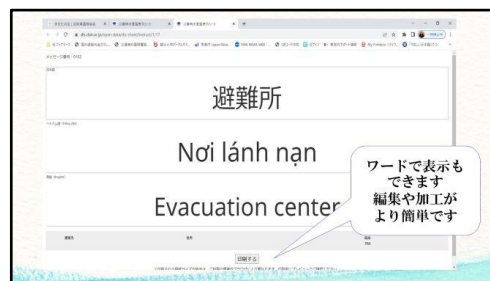
役に立つサイトをいくつか紹介します。まず「しが防災プラスワン～女性の視点と多様性～」です。

(<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bousai/sougo/325692.html>) 「知っというカード」(啓発用)と「どっちにするカード」(ゲーム)があり、自由にダウンロードして使用することができます。「やさしい日本語を活用しよう」では、外国人対策も書かれています。「みんなで災害に強い地域コミュニティをつくろう」では、性別や年齢、国籍に関わらず、様々な主体が地域防災の担い手になる研修や訓練を実施してくださいと書かれています。ぜひ次の訓練では外国の方と一緒に訓練してみてください。普段から付き合いがない、言葉が通じないからと言って、シャット

ダウンせず、通じ合わないこともあるからこそ、訓練を一緒にすることが大事なのです。

滋賀県国際協会も多言語防災情報を発信しています。(https://www.s-i-a.or.jp/bosai_info)
「多言語の表示シート付きの非常持出袋をつくろう！」はダウンロードできます。懐中電灯や救急セットなどの言葉が外国語で書かれているカードも紹介されています。

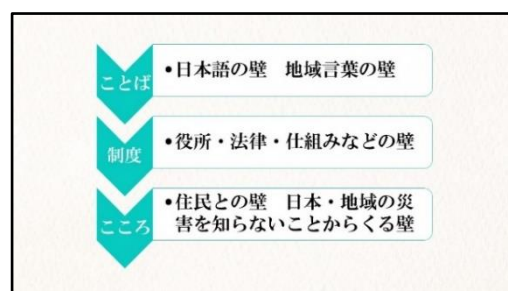
また、自治体国際化協会 (CLAIR/クレア) にもリンクしています。ここには災害時多言語表示シートがあります。日本語を他の国の言葉で表示できます。文例の作成やピクトグラムもつくることができ、ワードで編集や加工もできます。事前に「避難所」、「使用禁止」、「女性用トイレ」などの表示シートを印刷して準備しておけば、いざという時にすぐに張り出すことができます。



更に、滋賀県国際協会では災害時外国人サポーター制度を導入しています。災害時外国人サポーターは語学が堪能でないとだめだと思いがちですが、避難所巡回のサポートをしてくださる方や、情報発信が得意な方などに入っていただければと思います。詳しくは滋賀県国際協会にお問い合わせください。

まとめ

在住外国人にとって災害時には、3つの壁があると言われていています。一つ目は「ことばの壁」です。二つ目は役所・法律・仕組みなどの「制度の壁」です。三つ目は住民



との壁、日本や地域の災害を知らないことからくる壁、つまり「ところの壁」です。やさしい防災は地域住民にとってもやさしい防災です。地域の防災訓練にぜひ、引っ越しされてきた方、在住外国人の方などに声をかけてください。一緒に訓練することで3つの壁を乗り越えられると思います。そして、それを通して地域が活性化していくと思います。

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：観光で来られている外国人の方に関してはどのような対応を考えておられるのでしょうか。

答：観光客の場合は、その国の大使館等が邦人保護のために即時に退避等をさせることとなります。

東日本大震災や熊本地震の際にもスムーズな国外退去のためのバスのチャーターなどに苦労されたと聞いています。

問：外国人の方が働いている企業も多くあります。非常食にハラルフードを備えておくことも必要ではないでしょうか。

答：ハラルフードは、かなり宣伝されるようになってきました。好き嫌いで食べられないのではなく、宗教上などの理由で食べられないということを理解していただきたいと思います。また、アレルギーのある方は自分に合った食べ物を予め自分で備えておくことも大切だと思います。

問：訓練時には外国人の方にも避難者名簿に記入していただく必要がありますが、名前、住所、年

年齢など個人情報の提供を拒否されないでしょうか。

答：訓練の際に、避難者名簿の記入にも取り組んでいますが、個人情報の取り扱いには注意しています。年齢の拒否はやはりあります。自治体国際化協会などのサイトから外国語（多言語）表記の避難者名簿を利用することもできます。大使館から所在確認の問い合わせがあっても、日本名や通称名の場合は把握が難しいということもあります。

「やさしい日本語」について

- ・「やさしい日本語」は、簡単な表現や言葉を使い、相手に配慮したわかりやすい日本語のこと。
- ・話すとき：**ゆっくり、はっきり、最後まで話す。余計な敬語は使わない。**
- ・書くとき：文を短くする、漢字にふりがな（ひらがな）を振る。

(参考：一般財団法人東京都つながり創成財団報告書)

「伝える」ではなく、「**伝わる**」ことが大事です

NHK のやさしい日本語で書いたニュースなど、「やさしい日本語」はいろいろなところで活用されています。短い文章で、言葉と言葉の間にスペースがあり、ルビも振ったり、ひらがなを多く使って書かれています。外国の方には、縦横の線で表されているカタカナは理解しにくいので、ひらがなで書いたほうが良いと言われています。県の消防学校でも外国人の方へ「やさしい日本語」を使って、消火器の使い方の説明する練習などもされています。

また、敬語は使わないほうが伝わりやすいです。敬語を使わないと失礼にならないか、敬語を否定することにならないかと考えてしまいがちですが、伝えるのでなくて、伝わるのが大切です。わからないと行動できないので、相手に通じることが何よりも大切なのです。

「やさしい日本語」は、簡単な表現や言葉を使い、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。話すときはゆっくり、はっきり、最後まで話してください。余計な敬語は使わなくても構いません。書くときは文をできるだけ短くして、漢字にひらがなでふりがなを入れましょう。

外国人の方にも呼び掛けて避難訓練をされた経験は少ないと思います。普段でも外国人の方とあまり接しない方も多いと思います。いざ一緒にやってみると、最初は身構えていたけれども、同じ人間として通じるものがあることを実感します。体験することでこころの壁が低くなってきます。通訳・翻訳のアプリも利用できますので、ぜひ外国の方とコミュニケーションをとっていただければと思います。やさしい日本語は普段から使っていないといざという時に使えません。

外国人の方にも呼び掛けて避難訓練をされた経験は少ないと思います。普段でも外国人の方とあまり接しない方も多いと思います。いざ一緒にやってみると、最初は身構えていたけれども、同じ人間として通じるものがあることを実感します。体験することでこころの壁が低くなってきます。通訳・翻訳のアプリも利用できますので、ぜひ外国の方とコミュニケーションをとっていただければと思います。やさしい日本語は普段から使っていないといざという時に使えません。

浅井さん、會田さん、参加者のみなさん ありがとうございました。



ファシリテーター：會田 真由美 さん(右)